

苔玉と寄せ植えの会

女性部長 高橋紀子

毎年ご好評を頂いています「苔玉と寄せ植えの会」ですが、今年は十二月八日 日 に開催しました。

今回は、男性の参加者も増え、会館

いっぱいの人で賑やかに行いました。いつものように、エデン様より生々とした色とりどりのお花をご用意していただき、担当の方から心のこもったお花の知識や情報をお聞きした後、皆様和気あいあいと思ひ思ひのイメージで植えたりつくりの作業を楽しまれました。

綺麗な花に触れ気持ちが癒されたひと時でした。ご参加ご協力頂いた皆様 大変ありがとうございました。



実は、始まる前の準備が一番苦労します。



<完成です。>



<寄せ植え>



<苔玉>



※男性も楽しい！

窓



平和の祭典オリンピックを前にして、いつもいろんな思いが湧き上がってくる。遠く憧れ 明と暗 円谷幸吉…。

読売新聞社社会部から、昭和十二年に西宮球場で行われたレスリングの全日本選抜対米国に出場した選手についての問い合わせがあった。戦前のことである。その試合の記念品として贈られたベルトのバックルが、フィリピンの山中で戦死した旧日本兵の遺品としてみつかった。その遺品をなんとかして遺族に返したいと、日本レス協会に問い合わせたところ石井先輩の名が上がったとのこと。それでOB会。

しかし、石井先輩は戦後も仙台でご存命であったことから、ご本人が戦死されたわけではないことは分かっていた。それでは誰がなぜベルトを戦場に…。昭和十二年の日米対抗戦に勝利した験を担いで関係者が出兵者に託したのか。それとも試合での友好を信じたのか。何れにしても、どんな思いでそのベルトを戦地に持て行ったのか、それを考えると胸が詰まる思いがする。

二十年前に他界された石井先輩のご子息を探し当て、事情を説明すると何と息子さんはそのベルトのことを知っていた。それは、石井先輩から弟さん出兵前夜に送られたものだと言明した。七十五年前、兄と弟でどんな会話をしたそのベルトを手渡したのだろうか。もう帰ることはないであろう弟を、気遣う兄、手渡されたベルトを手に、弟は何を誓い戦地に向かっただのか。偉大な兄を誇りに思い、遠いフィリピンの山中で散った若命、たった七十五年前のこと。日本が平和であり、そしてオリンピックが世界の平和と導く大会であってほしいと願う今日この頃である。

(OS M

三十五年前に亡くなった教皇が来日され、被爆地の長崎、広島で核廃絶を訴えられた。唯一の被爆国日本が核禁止条約を批准しない事も理解できない。離日前の上智大での有難い法話を是非、国会議員の先生方や官僚達の前で話して頂きたかった…。

金と権力に薄汚れた大人達を尻目に、世界中の子供達が地球温暖化や環境破壊にNOを突き付け立ち上がったことに希望を感じる。スウェーデンの少女がその代表でもある。

私達は地球に住まわせて貰っていることを忘れてはいけない…！

編集後記

日本中に感動と希望をもたらした、世界の多くの人々を熱くしたラグビーワールドカップ2019日本大会が終わりました。

ラグビー日本代表が、想像を絶する重圧の中で勇気をもちて戦う姿は、ラグビーファンのみならず多くの日本国民に感動を与えてくれました。

にわかファンの私は、日本VSスコットランド戦で選手が倒れながらボールを次から次と繋ぎ、稲垣啓太選手が決めた逆転トライの瞬間には、思わず飛び上がりて拍手をしていました。

選手たちの立ち居振る舞いや日本チームのひたむきなプレーに勇気と感動をもらいました。

自治会では姥ヶ山まり、さいの神プロジェクトをはじめ、他にも各専門部において様々な事業を行っています。役員、係りの方々のご努力は、もちろん地域の皆様方のご協力によって成り立っています。

この姥ヶ山自治会のまとまりの良さを誇りに思います。

お忙しい中、ご寄稿頂きました皆様方に心より感謝申し上げます。

投稿募集

最近気になること、いい話、川柳など、まじめなご意見から笑えるお話しまで、会員の皆様の原稿を募集しています。

発行は、年2回です。詳しくは、各ブロックの総務部までお問い合わせ下さい。

<< 姥ヶ山自治会のホームページは、<http://www.ubagayama.jp> です。>>